

1 校内研究グランドデザイン2018

学校教育目標

じょうぶな子ども
よく考える子ども
思いやりのある子ども

校内研究のビジョン

公立プライド

友達と楽しく夢中になれる、学びがいのある学校
同僚と切磋琢磨し合う、働きがいのある学校
保護者・地域から愛され期待される、通わせがいのある学校

校内研究のテーマ

「楽しい」授業の創造

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～

生活・総合の「楽しい」授業

- ◆ 3つの視点による授業改善
- ◆ クラスカリキュラムの開発
- ◆ 「ガイドライン」の活用
- ◆ 総合の「完全攻略本」の活用
- ◆ スタートカリキュラムの編成・実施

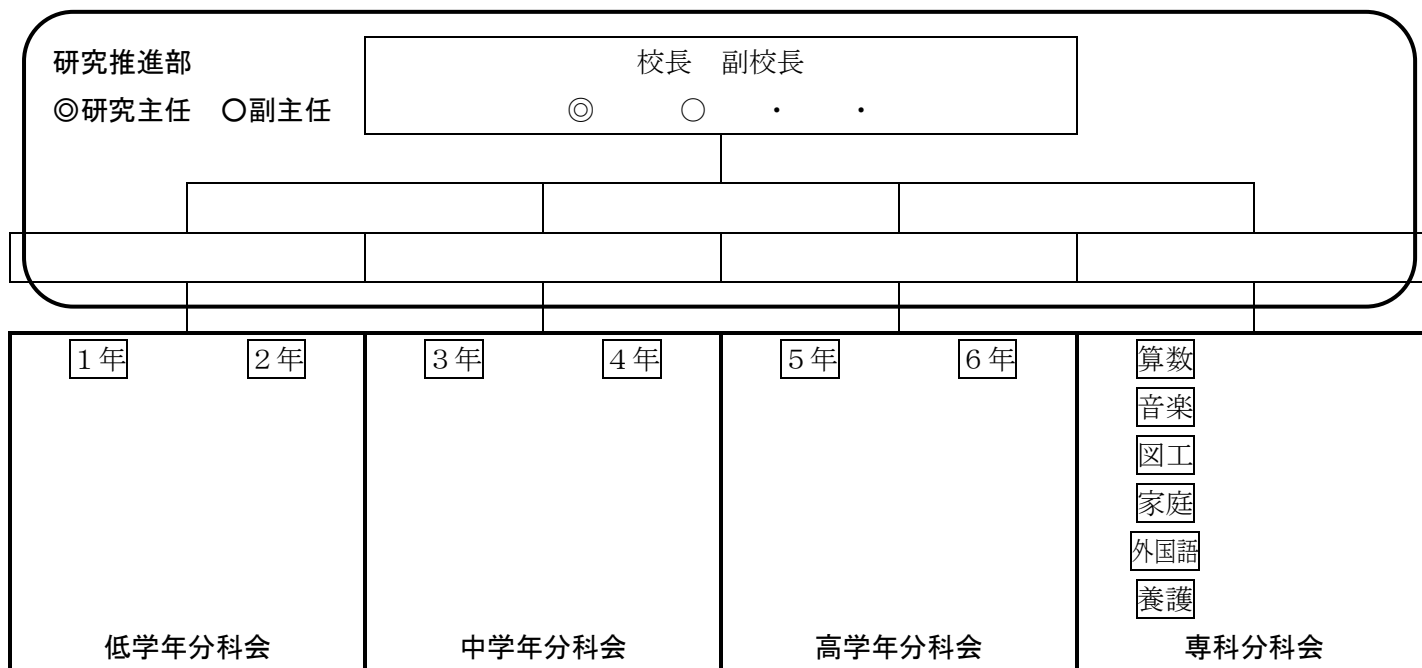
同僚性の構築

- ◆ 研究協議会の工夫
- ◆ 授業を見合い語り合う風土作り
- ◆ ホワイトボード・長机の活用
- ◆ 学年研・教科研の充実
- ◆ エッセイの共有による相互理解

各教科等の「楽しい」授業

- ◆ 新学習指導要領の具現化
- ◆ めあてと見通しの区別・充実
- ◆ まとめと振り返りの区別・充実
- ◆ 「考えるための技法」の活用
- ◆ 学び方の明示的な指導

2 校内研究の組織



3 校内研究の年間計画(案)

月	研究推進部		研究全体会		定例研究会		その他	
4月	3火 4水 9月 24火	三部会(年間) 三部会(4月分) 三部会(5月分) 三部会(6月分)			3火 10火 17火 24火	なし 研究の概要共有① 学年研(計画立案) 学年研(計画立案)	20金	教科研希望締切
5月	30水	三部会(7月分)			1火 8火 15火 22火 29火	なし 学年研(計画立案) 学年研(計画立案) 教科研 学年研	9月	教科研決定・周知
6月	1金	学習指導案検討①	13水	話題提供授業① 専科 (先生)	5火 12火 19火 26火	研究の概要共有② 学年研 教科研 学年研		
7月	18水	三部会(9月分)			3火 10火 17火	なし 教科研 なし		
8月						※学年研・教科研 の日をそれぞれ 設定し、実施。		
9月	5水 7金 26水	三部会(10月分) 学習指導案検討② 三部会(11月分)	19水	話題提供授業② 年 (先生)	4火 11火 18火 25火	学年研 教科研(交流①) なし なし		
10月	3水 24水	学習指導案検討③ 三部会(12月分)	17水	話題提供授業③ 年 (先生)	2火 9火 16火 23火 30火	学年研 なし 学年研 教科研 学年研		
11月	5月 20火	学習指導案検討④ 学習指導案検討⑤	14水	話題提供授業④ 年 (先生)	6火 13火 20火 27火	教科研 学年研 教科研 なし	2金	紀要全体像周知
12月	7金 19水	三部会(1月分) 評価検討	5水 12水	道場授業 6年 (先生) 話題提供授業⑤ 年 (先生)	4火 11火 18火	学年研 なし 教科研	15金	個人振り返り周知
1月	8火 9水	学習指導案検討⑥ 評価提案 三部会(2月分)	16水	話題提供授業⑥ 年 (先生)	8火 15火 22火 29火	学年研 なし 学年研 教科研		
2月	6水 12火	三部会(3月分) 学習指導案検討⑦	20水 27水	話題提供授業⑦ 年 (先生) 初任者研究授業	5火 12火 19火 26火	なし なし 学年研 教科研(交流②)	25月	個人振り返り締切
3月			6水	まとめの会 (渋谷一典先生)	5火 12火 19火	なし なし 研究の概要共有③	15月	紀要完成予定

※保護者向けの授業公開や取組報告などについては、要検討。

4 校内研究のビジョンとテーマについて

「公立プライド」というビジョンを設定した理由（昨年度のリーフレットより）

- ▶ 公立学校は、地域からの信託を受けて、自信と誇りをもって教育活動を行う場でありたい。しかし、それが難しい時代になり、そのことは本校も決して例外ではない。そこで、普通の公立学校として、普通に質の高い教育活動を行うことができる学校、つまり、本校に関わる全ての人々が「公立プライド」をもつことができる学校を目指したいと考えた。それは、児童にとっては「学びがい」があること、教師にとっては「働きがい」があること、保護者・地域にとっては「通わせがい」があることを意味している。

「楽しい」というキーワードに込めた思い（昨年度のリーフレットより）

- ▶ 「楽しい」というキーワードは、従来の学校観の転換を迫るための重要なキーワードである。毎日通う学校は、「楽しい」に越したことはない。「我慢と頑張り」も大切だが、そのことは、「楽しい」ということ否定することではない。本校の考える「楽しい」とは、「意味の自覚と問い直し～何のためか分かる～」ということを指している。「楽しい」と感じる時には、自分にとっての意味が発生している。その意味をかみしめながら、目的に向かって主体的に活動することができる。だからこそ、学校は、「楽しくなければ学校じゃない」。

なぜ、「主体的・対話的で深い学び」なのか？（学習指導要領解説 第1章 総説より）

- ▶ 子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。
- ▶ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の質的改善により実現したい子供の姿は、「次世代型教育推進センター」による「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」の成果を基に、ピクトグラムでイメージ化したものを後述する。

5 研究全体会までの動きと当日の流れ

学習指導案検討を中心とした動き

- ▶ 授業者を中心に、学年の教員が全員で学習指導案を作成する。基本的な流れは、以下の通り。

1	講師依頼を作成する。	研究主任	授業の1か月前まで
2	講師依頼をメールで講師に送付する。	研究主任	授業の1か月前
3	学習指導案を検討する。	学年	(随時)
4	学習指導案を分科会・研究推進部に配布する。	授業者	学習指導案検討日前日まで
5	学習指導案にコメントを入れる。	研究推進部	学習指導案検討日当日まで
6	コメントを基にして、学習指導案を検討する。	分科会・研推	学習指導案検討日当日
7	学習指導案などをメールで講師に送付する。	研究主任	授業の1週間前
8	学習指導案を印刷・配布する。	学年	授業の1週間前
9	必要に応じて、事前授業を行う。	学年	授業の前日まで
10	本時にかかわる資料などを印刷・配布する。	授業者	授業の当日まで

- ▶ 学習指導案の配布後は、授業当日までに指導案をしっかりと読み込み、自分なりの課題をもって授業を見るようにする。(授業者自評と分科会提案は、平成28年度から廃止している。)
- ▶ 学習指導案の検討は、限られた時間の中で行うために、授業者は検討の前日の朝までにC4 t hで指導案のデータを配布し、関係者は事前に印刷・目を通す・コメントを記入しておく。

授業当日の動き (全員参加の研究協議会のための工夫)

- ▶ 研究授業の意味の捉え直しについて、改めて共通理解を図る。
- ▶ 授業者の力量形成を図るとともに、参観者こそが1つの授業から多くを学ぶ場であることを確認するために、研究授業を「話題提供授業」として位置付け直すとともに、全員が参加し学び合うための研究協議会の方法を工夫する。
- ▶ 全体協議の在り方については、その都度、研究主任・研究副主任を中心に検討し、不断の改善を図る。
- ▶ 話題提供授業と研究協議会の時程は、現段階では、以下の通り。(13:00完全下校)

- 13:20～14:05 話題提供授業
- 14:05～14:20 移動・休憩、個人の付箋記入
- 14:20～14:40 グループ協議 (グループはくじ引きで決定)
- 14:40～14:45 趣旨説明・講師紹介 (研究主任)
- 14:45～15:50 全体協議・謝辞 (授業者)
 - ・他のグループの付箋や模造紙でのまとめを見に行くぶらぶらタイム。(8分)
 - ・ぶらぶらして気付いたことをグループで再度話し合うおしゃべりタイム。(7分)
 - ・全体でのディスカッション。(25分)
 - ・講師の先生からの指導・講評を聞く。(25分)
 - ・授業者の振り返り。(2分)
- 15:50～16:00 自分自身の振り返りの記入・提出

- ▶ 話題提供授業の見方の基本は、以下の通り。

- 子供たちの輪の中に入ったり隣まで近付いたりして、内側から授業を見るように努める。
- 授業が始まったら早めに焦点化し、中心的に見る子を決める。その子の言動などをノートなどに記録し、その後の付箋記入やグループ討議では、具体的な子供の名前を挙げて話ができるようにする。
- 授業中の子供たちとの関わりは、授業の流れやその後の協議を損ねない範囲で、子供の求めなどに応じて、適切に行う。(積極的な指導などは避ける。)
- 子供たちの発言や様子、教師の関わりなど、しっかりと記録をするようにする。指導案にメモをする程度では、その後の協議を有意義な時間にすることができない。ノートなどを用意する。

- ▶ 個人の付箋記入・グループ討議の方法は、以下の通り。

- 3色付箋は、3つの視点に沿って、「楽しい」授業＝「主体的・対話的で深い学び」が実現されているかを、具体的な授業の事実や子供たちや教師の姿、発言、記述、表情、変容、関わりなどを根拠に、自分の意見をサインペンで記入する。(付箋には記名をする。) ※ピクトグラムは後述。
 - 緑 → 「主体的な学び」の視点
 - 赤 → 「対話的な学び」の視点
 - 青 → 「深い学び」の視点 (「見方・考え方」に関わることは、ここに含む。)
- 黄色の付箋には、①本時以外の本単元にかかわること (基本的な考え方、育てたい児童像、学習内容、単元の活動計画、教材研究など)、②教科等の特質とは直接かかわりのない授業一般のこと (例: 指導技術、学級経営、児童との関係性、教室環境など) を記入する。
- グループ協議では、成果と課題のスケールチャートの上にそれぞれが書いた付箋を出し合い、KJ法的手法を用いて似ているものでまとめるなどし、プロッキーで囲ったりキーワードを書いたりする。

➤ 話題提供授業当日の研究推進部の仕事分担は、基本的には以下の通り。

A (授業をする分科会)	○研究推進、学習指導案検討・作成 ○反省会の設定・運営 ※場所や時間は、講師の都合による。
B (その右の分科会)	○付箋・模造紙・サインペン・RSの印刷・準備・片付け ○「☆キラリ☆」と光っていた付箋の発見・まとめ
C (その2つ右の分科会)	○くじの管理、グループ表示の準備・片付け ○研究協議会の記録・まとめ
D (その左の分科会)	○タブレット端末での話題提供授業の動画撮影 ○リフレクションシートの整理・まとめ ※適宜、抜粋や分類をする。
研究主任・研究副主任	○大型テレビ・講師の飲み物の準備・片付け ○記録写真 ○全体協議の企画・運営・板書 ○趣旨説明・講師紹介・全体司会 ○研究推進だよりでのまとめ ○裏研究推進だよりの原稿集約・まとめ

6 校内研究のツールとシステム

3つの視点からの授業改善

➤ 授業改善の視点として、以下の3つを設定している。これらに基づいて、単元づくり・授業づくりやその見直し、話題提供授業に対するグループ協議・全体協議を行う。

3つの視点	ピクトグラム一覧	
<p>①「主体的な学び」の視点</p> <p>学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。</p>	 興味や関心を高める  見通しを持つ  自分と結び付ける	 粘り強く取り組む  振り返って次につなげる
<p>②「対話的な学び」の視点</p> <p>子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。</p>	 互いの考えを比較する  多様な情報を収集する  思考を表現に置き換える  多様な手段で説明する	 先哲の考え方を手掛かりとする  共に考えを創り上げる  協働して課題解決する
<p>③「深い学び」の視点</p> <p>習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。</p>	 思考して問い続ける  知識・技能を習得する  知識・技能を活用する  自分の思いや考えと結び付ける	 知識や技能を概念化する  自分の考えを形成する  新たなものを創り上げる

「単元づくり・授業づくりガイドライン」(生活・総合)

- ▶ 生活・総合は、カリキュラムをデザインする教師の力が求められる。それを支援するとともに、校内での共通認識を図るツールとして、「単元づくりガイドライン(生活)」「単元づくりガイドライン(総合)」「授業づくりガイドライン(生活・総合)」を開発した。
- ▶ これらを活用して、単元づくり・授業づくりをしたり、見合った授業について語り合ったりする。
- ▶ なお、これらは、平成28～29年度の校内研究の成果を集約したものである。したがって、今年度の校内研究を進めながら適宜修正などを行い、よりよいものへとブラッシュアップしていきたい。

学習指導案の内容と形式の精選(総合)

- ▶ 本校の総合は、原則として、70時間1単元で活動計画を立案する。
- ▶ 本校のような大規模校の課題の一つに、学年カリキュラムと学級カリキュラムのバランスが挙げられる。全体計画に基づき、組織的・計画的に実践を進めていくことが欠かせない。
- ▶ 活動計画を立案するときには、単元の目標や学習内容(目標を実現するにふさわしい探究課題・探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力)、単元の終わりまでに育ててほしい姿を明確にするとともに、単元の活動の大きな流れやそれに伴う児童の変容などをクリアに描くことが重要となる。
- ▶ 4～5月の学年研では、昨年度の学習指導案や「単元づくりガイドライン」を参考しながら、学習指導案の主要な部分を書き込むことを通して、年間のカリキュラムを立案する。

「完全攻略本2017・2018」(総合)

- ▶ 子供たちが、総合の学び方を理解し、単元を創り出したり活動を選択したりすることができるようにすること、また、教師が、総合の学び方について子供たちと共有できるものを持ち、授業を進める上での指針とすることを目的として、平成28年度の夏に「完全攻略本2016」を作成した。
- ▶ 内容の量の多さなどの反省点を踏まえて、平成28年度末に「完全攻略本2017」へと改訂するとともに、平成29年度末には微修正を施した「完全攻略本2018」を新3年生向けに作成した。
- ▶ この3冊の内容は、一対一で対応しているため、「完全攻略本2016」は教師用、「完全攻略本2017・2018」は児童用とすることができる。
- ▶ 情報活用能力は、教科等横断的な視点から育成を図ることが求められている。思考ツールの活用方法などについても詳しく説明していることから、全教科等で活用を進めたい。

研究推進だよりの発行と個人のエッセイ

- ▶ 研究推進だよりは、次の2種類を発行する。(どちらも、およそ隔週～毎週の発行とする。)

- 「レインボー」…研究主任による発行。連絡事項、授業や協議会のまとめ、情報発信など。
- 「(名称未定)」…研究副主任による発行。研究協議会の議事録、リフレクションシートや付箋の記述のまとめ、個人のエッセイ、情報発信など。

- ▶ 自分の実践を振り返り、読み合い、互いの信念を共有するために、管理職も含めて全教員が、個人のエッセイを年に1回ずつ執筆する。
- ▶ 今年度のテーマは、「私の好きな教科等&授業づくりの肝」とする。自分が中心的に学んだり取り組んだりしている教科等について、これまでの自分の歩みからなぜその教科等に夢中になるのか、また、その教科等の授業づくりで大切にしていることは何かといったことについて、「自分を語る」ということを意識しながらA4半分程度で執筆する。
- ▶ 年度末の研究紀要では、平成29年度に実施した「実践に即した個人の振り返り」を行う予定である。

定例研究会の充実

- 毎週火曜日の16:30～16:45は、定例研究会とする。(ただし、成績処理期間や学校行事前は除く。)以下の内容をローテーションする。

○学年研…年間指導計画や単元の活動計画の立案、学習指導案の検討、各学級での実践の報告などを行う。各学年・専科に、1冊ずつミニノート配布する。記録者を決めて、話し合われた内容をまとめ、研究主任・研究副主任・管理職に回覧する。また、このミニノートは、教員室後ろのホワイトボード付近に保管し、誰でも閲覧できるようにする。

○教科研…年度当初に選択した教科等に基づき、2～3人程度のチームを作る。そのチームで、新学習指導要領やその解説を読み込んだり、その趣旨に基づく実践の報告をしたりする。9月と2月に、チームでの成果を互いに交流する機会を設定している。

日常的に授業を見合い、語り合うことの推進

- 全教科等で「楽しい」授業や「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、月1回の研究全体会だけではなく、日常的に授業を見合い、語り合っていくことが必要である。
- 授業観察の期間(7月・10月・2月)や学校行事がない月(5月・6月・1月)には、「授業見学推進月間(仮称)」などの工夫を行いたい。
- 授業を見合い、語り合うことこそ、自分の授業力を向上させる王道であり近道でもある。さらに、その取組は、切磋琢磨し合う同僚性を築き、働きがいのある職場を作ることにもつながる。

☆いつでも誰でもどの授業でも、教室をオープンにしよう!

★空き時間や低学年の6校時、ちょっと手の空いたときなどを使って、授業を見に行こう!

☆授業観察などの機会に略案を作ったときには、C4+hに流そう!

★日々の授業の様子や子供たちの姿、その日に見た授業を、教員室で話題にしよう!

☆教員室後ろのホワイトボードの活用を推進しよう!